大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	F114310104650	設置等組織名	情報学部情報学科
大学名	関東学院大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	神奈川	事業計画名	関東学院大学情報学部設置計画

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和7年度	2-① 令和7年9月 6号館2階 助手準備室整備 2-② 令和7年9月 XRテストルーム&IoT・ロボット製作のための工房整備 2-③ 令和8年2月 6号館1階 オープンラウンジ整備 2-④ 令和8年2月 6号館1階 ラーニングコモンズ整備 2-⑤ 令和8年2月 6号館5階 情報工学実験室整備	2-① 令和8年1月 6号館2階 助手準備室整備 2-② 令和8年1月 6号館5階 XRテストルーム＆IoT・ロボット製作のための工房整備（～3月） 2-③ 令和8年1月 6号館5階 オープンラウンジ整備（～3月） 2-④ 令和8年1月 6号館1階 ラーニングコモンズ整備（～3月） 2-⑤ 令和8年1月 6号館5階 情報工学実験室整備（～3月）	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。 本事業については、当初計画どおりに各種準備および実施を進めることができた。特に、3月20日に開催された2027年度オープンキャンパスに間に合わせて整備を完了し、次年度の学生募集活動に直接的に寄与した点は、大きな成果として評価できる。 当該オープンキャンパスでは、ラーニングコモンズに高校生および保護者を受け入れ、情報学部の教育内容・特色・学修環境について体系的な説明を行った。また、ラーニングコモンズ以外の施設については、教職員および学生スタッフが案内役となり、見学ツアー形式で紹介することで、来場者が学部全体の雰囲気や学修環境をより具体的に理解できるよう工夫した。 さらに、助手準備室については、3月下旬より情報学部学生支援室としての機能を段階的に開始した。4月1日には、新入生を迎えるための環境整備をすべて完了し、履修相談・学生生活支援・各種手続き案内など、初動期に必要となる支援を速やかに提供できる体制を確立した。これにより、新入生が安心して学修を開始できる環境づくりに大きく貢献した。
令和8年度	3-① 令和8年5月～令和9年3月 情報学部学生募集のためのパンフレット制作 3-② 令和8年5月～令和9年3月 情報学部学生募集のためのホームページメンテナンス費 3-③ 令和8年4月～令和9年3月 情報学部学生募集のための広告費 3-④ 令和8年4月～令和9年3月 教育内容の充実 3-⑤ 令和8年4月～令和9年3月 事業運営補助		令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度	3-① 令和9年5月～令和10年3月 情報学部学生募集のためのパンフレット制作 3-② 令和9年5月～令和10年3月 情報学部学生募集のためのホームページメンテナンス費 3-③ 令和9年4月～令和10年3月 情報学部学生募集のための広告費 3-④ 令和9年4月～令和10年3月 教育内容の充実 3-⑤ 令和9年4月～令和10年3月 事業運営補助		令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度	3-① 令和10年5月～令和11年3月 情報学部学生募集のためのパンフレット制作 3-② 令和10年5月～令和11年3月 情報学部学生募集のためのホームページメンテナンス費 3-③ 令和10年4月～令和11年3月 情報学部学生募集のための広告費 3-④ 令和10年4月～令和11年3月 教育内容の充実 3-⑤ 令和10年4月～令和11年3月 事業運営補助		令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度	3-① 令和11年5月～令和12年3月 情報学部学生募集のためのパンフレット制作 3-② 令和11年5月～令和12年3月 情報学部学生募集のためのホームページメンテナンス費 3-③ 令和11年4月～令和12年3月 情報学部学生募集のための広告費 3-④ 令和11年4月～令和12年3月 教育内容の充実 3-⑤ 令和11年4月～令和12年3月 事業運営補助		令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価：リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価：リストから選択してください。
令和16年度			令和16年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和8年5月 大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程の名称変更届出予定	令和8年5月 大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程の名称変更届出	
定員減又は 学部等の廃止	特になし。	特になし。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	関東学院大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□
② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。
④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。
⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。
⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。
⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。
⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）
⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。
⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。
⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。
⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。
⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
PBL科目にて、三井アウトレットモール横浜ベイサイドおよび八景島シーパラダイスが実際に抱えている課題を対象とし、実際に現地を訪れ、フィールドワークを行う。同様に、PBL科目にて、教育環境整備を事業の一つとしている株式会社ウチダシステムズと連携し、情報工学実験室のICT環境を整備する課題を展開する。 企業・団体による寄付講座として、日本アイ・ビー・エム株式会社による企業ITシステム概論1・2、一般社団法人金融データ活用推進協会（FDUA）ならびに特定非営利活動法人金融IT 協会（FITA）による金融IT 入門、公益社団法人日本数学検定協会によるビジネス数学入門を開講する予定である。 また、日本アイ・ビー・エム株式会社から客員教授1名、三菱UFJ信託銀行から客員教授1名、PwCアドバイザリー合同会社から客員准教授1名が着任する予定であり、就職活動関連イベントでの講演や卒業研究指導など、実務者として学生を指導する計画となっている。	情報学部の前身である理工学部理工学科情報ネット・メディアコースのPBL科目にて、三井アウトレットモール横浜ベイサイドおよび八景島シーパラダイスが実際に抱えている課題を対象とし、実際に現地を訪れ、フィールドワークを行った。同様に、PBL科目にて、教育環境整備を事業の一つとしている株式会社ウチダシステムズと連携し、情報工学実験室のICT環境を整備する課題を展開した。これらの取り組みは、年次進行で情報学部情報学科のPBL科目に継承される予定である。 情報学部の前身である理工学部理工学科情報ネット・メディアコースの専門応用科目として、企業・団体による寄付講座である、日本アイ・ビー・エム株式会社による企業ITシステム概論1・2、一般社団法人金融データ活用推進協会（FDUA）ならびに特定非営利活動法人金融IT 協会（FITA）による金融IT 入門、公益社団法人日本数学検定協会によるビジネス数学入門が開講された。これらの寄付講座は、年次進行で情報学部情報学科の専門基礎科目として開講される予定である。 また、令和7年度の実績ではないが、当初の計画通り、日本アイ・ビー・エム株式会社から客員教授1名、三菱UFJ信託銀行から客員教授1名、PwCアドバイザリー合同会社から客員准教授1名が令和8年4月に着任した。	計画通りに実施できており、課題はない。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

□ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
□ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
□ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
□ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
外国人留学生を対象に、総合型選抜（外国人留学生）、学校推薦型選抜を実施する。また、授業料の減免制度（「留学」の在留資格を持つ私費外国人留学生に対して授業料を最大30%減免）、日本語教育プログラムの開講、インターナショナル・レジデンス（国際学生寮）の配置など、様々なサポートを行うことで、留学生の受入を強化する。	外国人留学生を対象に、総合型選抜（外国人留学生）、学校推薦型選抜を実施した。総合型選抜（外国人留学生）では、14名の志願があり、2名が合格、2名が入学した。学校推薦型選抜では、1名の志願があり、1名合格、1名が入学した。また、授業料の減免制度（「留学」の在留資格を持つ私費外国人留学生に対して授業料を最大30%減免）、日本語教育プログラムの開講、インターナショナル・レジデンス（国際学生寮）の配置など、様々なサポートを行い、留学生の受入を強化している。	計画通りに実施できており、課題はない。

大学名	関東学院大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	情報学部情報学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定・届出	開設																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	160																	
		編入学定員	人	-	2																	
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	160																	
		入学者数	人	-	172																	
		女子学生数	人	-	17																	
		社会人学生数	人	-	0																	
		留学生数	人	-	3																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	160																	
		入学者数(B)	人	-	172																	
		女子学生数	人	-	17																	
		社会人学生数	人	-	0																	
		留学生数	人	-	3																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.08																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	160																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	172																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.08																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	3																	
		授業科目の単位数	単位	-	10																	

大学名	関東学院大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	625	625																	
		入学者数	人	636	716																	
		女子学生数	人	131	142																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	21	24																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	625	625																	
		入学者数(B)	人	636	716																	
		女子学生数	人	131	142																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	21	24																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.15																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	2,536	2,536																	
		編入学定員	人	16	15																	
		在籍者数(D)	人	2,453	2,589																	
		編入学者数	人	11	11																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.97	1.02																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	482	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	200	210																	
		授業科目の単位数	単位	887	868																	

大学名	関東学院大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	2,754	2,758																	
		入学者数	人	3,000	3,005																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	2,754	2,758																	
		入学者数(B)	人	3,000	3,005																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.09	1.09																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	11,096	11,112																	
		編入学定員	人	38	37																	
		在籍者数(D)	人	11,241	11,555																	
		編入学者数	人	64	60																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	1.04																	

４.外部資金の状況（全学）

年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況		申請-5	申請-4	申請-3	申請-2	申請-1	申請	選定												
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	198,679	328,756	257,548	207,519	221,732	469,274	342,256												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	228,933
本事業による助成金の額(F)	千円	153,319
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	232,766

特記事項